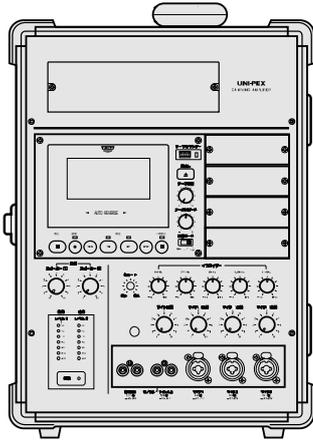


# UNI-PEX

## 取扱説明書



定格出力70W / カセットデッキ付

# キャリングアンプ

## CGA-704A

このたびは、キャリングアンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。  
お読みになったあとは、必ず保存してください。

## 目次

安全上のご注意	1~3
各部の名称と説明(前面)	4~5
各部の名称と説明(後面)	6
スピーカーの接続方法	7
カセットデッキ部の説明	8~11
別売ワイヤレスチューナーユニットの説明	12~14
接続例	15
キヤノンタイプコネクタの説明	16
点検方法	17
定格	18
外観寸法図	19

## 安全上のご注意

### 安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



### 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



プラグを  
コンセント  
から抜け

分解 / 改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



 <b>警告</b> この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	
<b>異物を入れない / 濡らさない</b> 水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。(雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。)	
<b>通風孔をふさがない</b> 通風孔をふさぐ、ものを掛けたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。	
<b>電源コードを傷つけない</b> 電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。	
<b>表示された電源電圧以外の電圧で使用しない</b> 火災・感電の原因となります。	
<b>ACサービスクンセントに接続する機器の消費電力の合計は、機器に表示しているW数またはA数を超えない。</b> 火災の原因となります。音響機器以外は接続しないでください。	
<b>AC接続コードは機器に付属の物、または指定の物以外は使用しない</b> 火災・感電の原因となります。	
<b>屋外で使用中に雷が鳴り出したら、使用しない</b> 落雷の原因となります。使用を中止し、機器から離れてください。	
<b>表示部が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しない</b> 事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。	
<b>ワイヤレスマイクを危険作業の誘導などに使用しない</b> 場所や距離や周囲の雑音条件によっては電波が到達しなかったり、瞬間的に電波が遮られたりして放送が途切れたりして、作業の指示などが完全には伝達できない場合があります、事故の原因となることがあります。	

 <b>注意</b> この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。	
<b>湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない</b> 火災・感電の原因となることがあります。	
<b>不安定な場所に置かない</b> 落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。	
<b>電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけない</b> コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。	
<b>異常に温度が高くなる場所に放置しない</b> 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。	
<b>長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く</b> 火災の原因となることがあります。	 
<b>お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く</b> 感電の原因となることがあります。	 <small>プラグをコンセントから抜く</small>
<b>電源を入れる前には音量を最小にする</b> 突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。	

 <b>注意</b> この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。	
樹脂加工部に対してベンジンやシンナーなどの溶剤を使用して清掃しない。また、タバコなどの火を近づけない 部品変形により故障して、火災などの原因となることがあります。	
長時間音が歪んだ状態で使わない スピ - カ - が発熱し、火災の原因となることがあります。	
濡れた手で、電源コ - ドを抜き差ししない 感電の原因となります。	
電源プラグを抜くときは、電源コ - ドを引っ張らない コ - ドが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。	
使用中又は使用后すぐに放熱器にさわらない 放熱器が熱くなっている場合がありますので、やけどの原因となることがあります。	
使用中は筐体蓋を取り付けない 内部に熱がこもり火災の原因となります。	
移動の際は必ず筐体ふたを確実に取り付けて持ち運ぶ 落下やけがの原因となることがあります。	
移動の際は必ず正立した状態で移動する 故障して、火災などの原因となることがあります。	
移動するときは、コード類を傷つけない 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コ - ドを外してから行ってください。コ - ドが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。	 プラグをコンセントから抜く
この機器に乗ったり腰掛けたりしない 特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。	
カセットテープ挿入口に、手をいれない 特にお子様にはご注意ください。けがの原因となることがあります。	
オーディオ機器、外部スピ - カ - 等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。	
1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。	

## 設置・使用上のご注意

- 本機の放熱孔をふさがないように後面に10cm以上の空間を確保してください。
- 本機を水滴または飛沫のかかる場所で使用しないでください。
- 使用中に強い衝撃や振動を加えないでください。音切れや故障の原因となることがあります。
- 本機を雑音発生の原因になる機器の近くには設置しないでください。
- 高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器など。

### 移動(輸送)時について

- 本機の移動時は前面と後面にふたを確実に取り付けてください。前面には、必ず「**UNI-PEX**」のロゴマークが印刷された前面用のふたを取り付けてください。
- また、移動時に横倒しにしたり、上下逆にしないでください。必ず正立した状態で移動してください。

# 各部の名称と説明（前面）

## カセットデッキ部

P.8～11のカセットデッキ部の説明をご覧ください。

## スピーカー出力1 音量調節つまみ

スピーカー出力1に接続されたスピーカー出力の音量を調節します。

## スピーカー出力2 音量調節つまみ

スピーカー出力2に接続されたスピーカー出力の音量を調節します。

### ご注意...

マイクへ過大入力が入ったときや、各入力・内蔵デッキの音量調節つまみを上げ過ぎますと、スピーカー出力(1/2)とライン出力から歪んだ音が出力されます。そのような場合はマイクを口元から離すか、各入力・内蔵デッキの音量調節つまみを各々歪まないように調節してください。スピーカー出力(1/2)音量調節つまみを絞っても歪んだ音は変わりません。

## スピーカー1/2出力表示灯

スピーカー出力1/2の音量をそれぞれ表示します。赤色のLEDが点灯しないように各音量を調節してください。

## 電源表示灯

本機の電源が入ると緑色に点灯します。

## リミッター動作設定ジャンパーピン (ゴムキャップ)

リミッター機能を解除する場合はこのゴムキャップをはずし、内部のジャンパーピンを差し換えてください。P5のリミッター機能についてをご覧ください。

## 録音出力

( - 10dBV 2.2k 不平衡 )

カセットデッキなどを接続してください。この出力はモノラルです。接続デッキがステレオタイプの場合はL/Rに関係なく接続してください。

## ブランクパネル

(CDプレーヤーユニット取付部)

別売のCDプレーヤーユニットを組み込みます。CDプレーヤーユニットの取扱説明書をご覧ください。

## ブランクパネル

(ワイヤレスチューナーユニット取付部)

別売のチューナーユニット、または入力ユニットEU-300を合計4台まで組み込むことができます。P.12～14のワイヤレスチューナーユニットについての各説明をご覧ください。

取手

## フェーダー減衰量調節 つまみ

次頁のオートマチックフェーダー回路についての説明をご覧ください。

## イコライザー音質調節 つまみ

次頁の音場補正イコライザーの説明をご覧ください。

## マイク1/2/3音量調節つまみ

本機のマイク1/2/3入力に接続されたマイクロホンの音量を調節してください。

## マイク1/2/3入力

( - 62dBV 600 電子平衡 )

マイクロホンの接続にはキャノンタイプコネクター、及び大形単頭プラグが使用できます。プラグの抜けなどのトラブルを防ぐためにキャノンタイプコネクターの使用をおすすめします。P.16のキャノンタイプコネクターの説明をご覧ください。

## ライン音量調節つまみ

ライン入力に接続された機器の音量を調節してください。

## ライン入力( - 22dBV 10k 不平衡 )

カセットデッキなどを接続してください。本機はモノラルですのでステレオで入力された音もモノラル出力になります。又接続するピンジャックが片方の場合は、モノラル側に接続してください。

## オートマチックフェーダー回路について

本機はオートマチックフェーダー回路付です。マイク放送(ワイヤレスマイク放送も含む)時には、内蔵のカセットデッキやCDプレーヤー(別売ユニット組込時)ライン入力のミュージック放送の音量を自動的に減衰します。(図1参照)

減衰量はフェーダー減衰量(ミュート)調節つまみで調節することができます。右へ回すと、減衰量が大きくなり、左へ回すと小さくなります。(図2参照)マイク放送が終わるとミュージック放送の音量が自動的に元の音量に戻ります。

図2 フェーダー減衰量調節つまみ

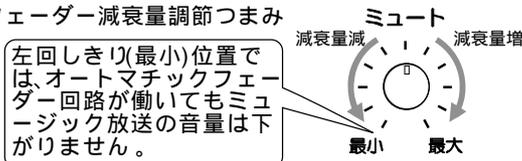
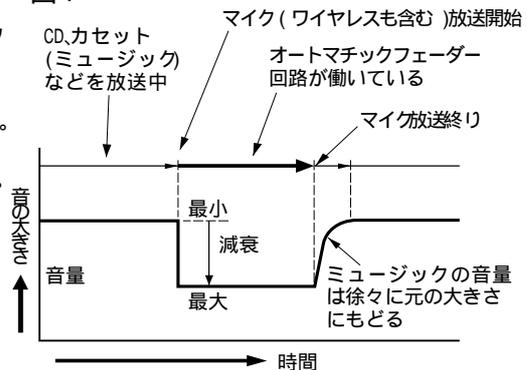


図1

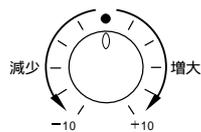


## 音場補正イコライザーの説明

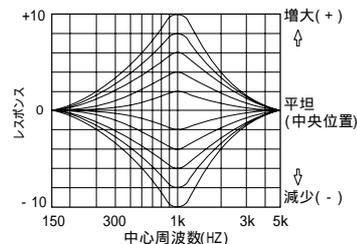
5ポイントの各周波数(100Hz/330Hz/1kHz/3.3kHz/10kHz)でのレベルを+10dB ~ -10dBまで連続的に変化させるための調節つまみです。各音場に合わせ、5ポイントの周波数特性を、必要に応じて補正することにより、マイク放送時のハウリング(キーンという音が出る)を抑えたり、反響の多い場所で明瞭度を上げるのに効果があります。

### 周波数特性のレベル調節とめやす

イコライザー調節つまみ



つまみ位置が中央でフラットな周波数特性です。つまみを「+」方向でレベルが最大10dB増大します。つまみを「-」方向でレベルが最大10dB減少します。



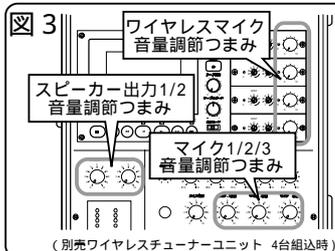
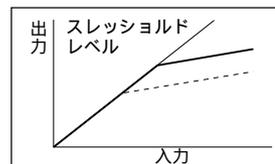
## リミッター機能について

マイク回路(マイク入力1/2/3、ワイヤレスマイク4系統)への過大入力時のひずみやハウリングなどを軽減するリミッター機能が組み込まれています。(別売ユニット組込時)

ご注意 工場出荷時は「リミッター動作オン」に設定しています。本機のリミッター機能を有効にご使用いただくため、下記の項目をお読みになり適切な設定の上ご使用ください。

リミッター機能を効果的にご使用いただくために

本機のマイク入力、マイク音量調節つまみとスピーカー出力1/2音量調節つまみの両方で出力レベル(スピーカーの音量)を調節できるようになっています。図3のような各つまみの位置に設定することで、リミッターが動作し始めるマイク入力のレベルを調節することができます。使用状況に合わせ各音量調節つまみを設定してください。



比較的小音量でリミッターが効き始める設定

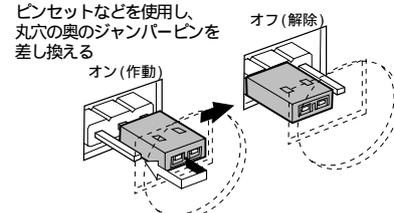
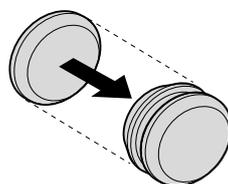


比較的大音量でリミッターが効き始める設定



リミッター動作の解除について  
ご使用状況などによりリミッター機能を解除される場合は、次の要領で「リミッター動作設定ジャンパーピン」の差し換えをおこなってください。(図4参照)

図4 ① ゴムキャップを取り外す ② 内部のジャンパーピンを差し換える



# 各部の名称と説明（後面）

## アンテナ感度切換スイッチ

ワイレスチューナーユニット組込時、アンテナの感度を使用状況に合わせてハイ/ローを選択してください。出荷時のスイッチ設定は"ハイ"(従来性能)になっていますが、1)~4)の場合は"ロー"に切り換えて感度を落としますと、混信を防ぐことができます。

- 1) 他のグループのマイクを近接場所(30m以上離れた場所)で同時に使用する場合。
- 2) 同一グループのマイクを近接場所(100m以上離れた場所)で同時に使用する場合。
- 3) 受信アンテナの設置場所によって、マイクが2m以内の距離に接近する場合。
- 4) その他、電波障害による混信がある場合。

ご注意...アンテナ感度切換スイッチを"ロー"に切り換えた場合、ワイレスマイクの通達距離は1/2~1/3に減少します。

## 放熱器

### ⚠ 注意

使用中又は使用後すぐに放熱器にさわらないでください。放熱器が熱くなっている場合がありますので、やけどの原因となることがあります。

## 電源スイッチ

このスイッチを押すと電源が入ります。

## AC電源入力端子

付属のAC接続コードを使用し、ACコンセントに接続してください。

### ⚠ 警告

付属又は指定の接続コード以外はご使用にならないでください。火災・感電の原因になります。

## サービスコンセント(非運動)

音響機器以外は接続しないでください。

### ⚠ 警告

接続する機器の消費電力の合計が100Wを超えないようにしてください。火災の原因になります。

## DC電源入力端子

DC電源で使用するときにはDC14.0V(12Vバッテリー)電源を接続します。

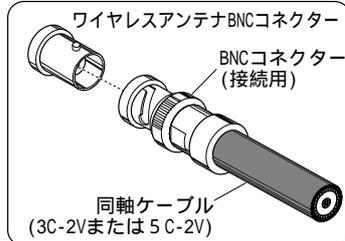
DC電源を接続するときは、端子カバーの両端のねじをはずし、端子カバーを取り外してください。接続が終わりましたら、必ず端子カバーを元の状態に取り付けてください。

DC電源使用時の定格電圧は14.0V、定格出力時消費電流は11Aです。

DC電源接続コードは、断面積2.0mm<sup>2</sup>以上で、コード長さは5m以内のものをご使用ください。又故障の原因となりますので接続するときは、+/-をよく確かめて、ショートしないように充分ご注意ください。

## ワイレスアンテナBNCコネクター(A/B)

ワイレスチューナーユニット組込時、ワイレスアンテナを接続します。接続には必ずBNCコネクターをご使用ください。P.13のアンテナ設置上のご注意をご覧ください。



ご注意...

BNCコネクターからはファンタム電源が出ています。ショートさせないようご注意ください。又指定のワイレスアンテナ以外は接続しないでください。簡易型ワイレスアンテナはAA-382(別売)をご使用ください。

## スピーカー出力1/2

4Pキャンタイプコネクターです。P.7のスピーカーの接続方法をご覧ください。

## アース端子

このアース端子は他の音響機器を接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アース(接地用)ではありません。

## ライン出力ジャック

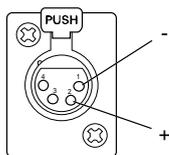
(0dB 600 不平衡)

別売のアンプ内蔵モニタースピーカーMAS-102Aを接続してください。

# スピーカーの接続方法

## ローインピーダンススピーカーの接続

図 5

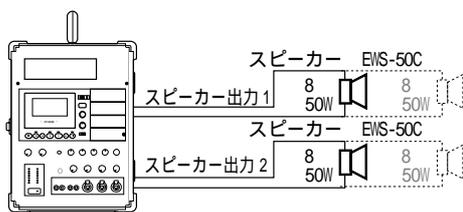


EWS-50Cを使用される場合、接続には別売のキャノンタイプコネクター付スピーカーコードLS-1204 (20m)をご使用ください。LS-1204はロー/ハイインピーダンス兼用のスピーカーコードです。EWS-120 (防滴形)を使用される場合、接続にはEWS-120に付属の防滴コネクター (ノトリック製 NLT4FX-BAG)付スピーカーコード (20m)をご使用ください。ローインピーダンス出力は図5のようにコネクターに結線されています。(詳しくはP.16のキャノンタイプコネクターの説明をご覧ください。)本機のスピーカー出力1/2に各々接続できるスピーカーは下表のとおりです。

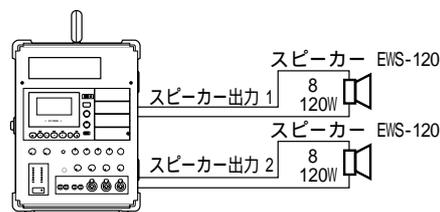
適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
4 ~16	35W以上

図 6 接続例

各スピーカー出力にEWS-50Cを1~2台接続



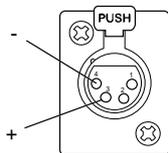
各スピーカー出力にEWS-120を1台接続



特にご注意を. . . ローインピーダンススピーカーとハイインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。多数のスピーカーを接続するときは、全スピーカーの合成インピーダンスが4以下にならないようにしてください。使用するスピーカーの定格入力、スピーカー1個に加わる入力W数より大きいものを使用してください。

## ハイインピーダンススピーカーの接続

図 7

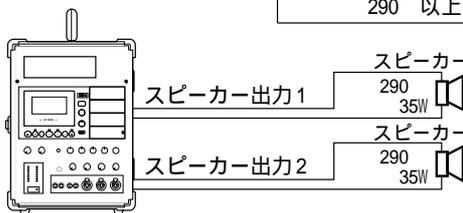


ハイインピーダンススピーカーを接続する場合は別売のキャノンタイプコネクター付スピーカーコードLS-1204 (20m)を使用してください。LS-1204はロー/ハイインピーダンス兼用のスピーカーコードです。ハイインピーダンス出力は図7のようにコネクターに結線されています。(詳しくはP.16のキャノンタイプコネクターの説明をご覧ください。)

本機のスピーカー出力1/2に各々接続できるスピーカーは下表のとおりです。

適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
290 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が35W以内

図 8 接続例



特にご注意を. . . スピーカーの合成インピーダンスが、アンプの適合インピーダンスより小さくならないようにしてください。スピーカーの合計W数はアンプの定格出力以下にしてください。ハイインピーダンススピーカーとローインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。感電に注意！出力端子には、定格出力時に100Vの電圧がかかります。

# カセットデッキ部の説明

## 各部の名称と説明

### 録音ボタン

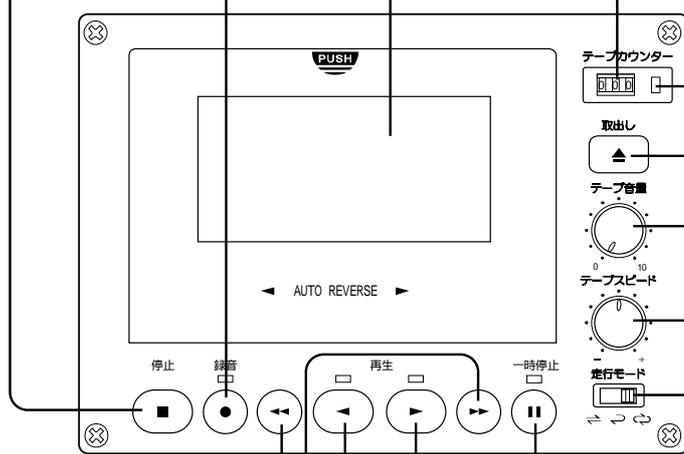
このボタンを押しますと録音可能な走行方向を確認する動作をした後、録音待機状態となり、録音ボタン上部の録音表示灯(赤)が点灯します。また再生ボタン上部の走行表示灯(緑)が録音可能方向のみ点滅します。録音したい方向の再生ボタンを押した時点で録音が始まります。(P9の録音のしかたをご覧ください。)

### 停止ボタン

録音、再生、早巻き中のテープを止めるときに押します。

### カセットホルダー

必ず「PUSH」マーク部を押して確実に閉めてください。



### 早巻きボタン

このボタンを押しますと矢印の方向にテープが早巻きされます。( または )再生中にこのボタンを押しますと頭出しができます。P10の一曲頭出しのしかたをご覧ください。

### 再生ボタン

このボタンを押しますと、矢印の方向に再生を開始し、再生ボタン上部の走行表示灯(緑)が点灯します。

### 一時停止ボタン (ポーズボタン)

このボタンを押しますと録音、再生中でもその間テープを止めることができ、一時停止ボタン上部の一時停止表示灯(橙)が点灯します。このボタンを再び押しますと録音、再生が再開されます。

### テープカウンター

録音時このカウンターの数字をメモしておくことで録音開始時や希望位置をさがしやすくなります。

### リセットボタン

このボタンを押すとテープカウンターの数字が“000”に戻ります。

### 取り出しボタン

このボタンを押しますとカセットホルダーが開きテープの挿入、取り出しができます。  
**ご注意**  
 停止ボタンを押してテープの動作を止めてから押してください。

### テープ音量調節つまみ

カセットデッキの音量を調節してください。

### テープスピード調節つまみ

カセットテープの再生速度を調節してください。(可変範囲 ±18%)  
 速度調節は再生時のみ可能です。録音時の速度調節はおこなえません。

### テープ走行モード選択スイッチ

テープの走行モードを選択するスイッチです( ⇄ ⇂ ⇃ )の3つのモードから1つ選択します。P11の走行モードについてをご覧ください。

## 録音レベルについて

録音レベルの調節は録音する入力または機器側の各々の音量調節つまみで設定します。

ある程度の音量で放送しているときに放送内容を録音する場合は問題ありませんが、音量を小さくして録音しますと録音レベルが不足し、再生音量が小さくなる場合があります。

特に本機を録音のみの目的で使用するときは、本機の音量調節つまみはなるべく中央付近になるように設定してください。また、スピーカー出力1/2音量調節つまみを最小にすることをお勧めします。

**ご注意...** DC電源で使用中の電圧低下、及びメカに異常が発生しますと走行表示灯と録音表示灯、一時停止灯が交互に点灯しカセットは動作しません。またテープ走行中に電源スイッチを切ったり、ACプラグを抜いたりバッテリーの電圧が異常に低下した場合、カセットテープが取り出せなくなることがあります。いったん電源スイッチを切り、ACプラグをコンセントに差すか、満充電のバッテリーと交換し電源スイッチを入れてカセットテープを取り出してください。



**注意** 電源を入れる前には各音量を最小にする。突然大きな音がでて聴力障害などの原因になることがあります。

## 再生のしかた

### 1. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。

### 2. テープを挿入する

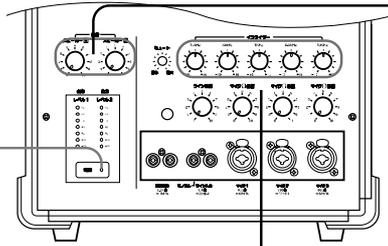
取出しボタンを押してカセットホルダーを開き、テープを挿入後、カセットホルダーの「PUSH」マーク部を押して閉めてください。

### 4. 再生ボタンを押す

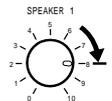
正方向に再生する場合は 再生ボタンを押します。逆方向に再生する場合は 逆再生ボタンを押します。テープが再生を開始し、走行表示灯が点灯します。

### 8.

再生を止めるときに、停止ボタンを押します。

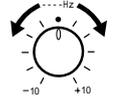


5. スピーカー(1/2)音量を調節する  
スピーカー出力1/2音量調節つまみを目盛り位置「8」をめやすに調節してください。



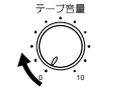
### 7. 音質を調節する

音質を各イコライザー音質調節つまみで調節してください。



### 6. 音量を調節する

音量をテープ音量調節つまみで調節してください。



### 3. 走行モードを選択する

テープ走行モード選択スイッチで走行モードを選択してください。(P11の走行モードについてをご覧ください。)

## 録音のしかた

### 1. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。

### 8.

録音を止めるときに、停止ボタンを押します。

### 5. 録音ボタンを押す

録音ボタンを押しますと、録音可能な走行方向を確認する動作をした後、録音表示灯が点灯、録音可能な方向の走行表示灯が点滅して録音待機状態となります。カセットテープの誤防止防止つまみが折れている場合は、その方向の走行表示灯は点滅しません。

注)録音可能な走行方向の確認動作中は「EJECT」ボタンを押さないでください。また走行表示灯が点滅していない方向の再生ボタンを押しても録音はできません。

### 6. 再生ボタンを押す

録音を開始したい方向の再生ボタンを押してください。走行表示灯が点灯し、録音待機状態となります。

### 2. テープを挿入する

取出しボタンを押してカセットホルダーを開き、テープを挿入後、カセットホルダーの「PUSH」マーク部を押して閉めてください。

### 3. 走行モードを選択する

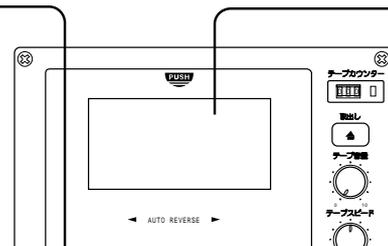
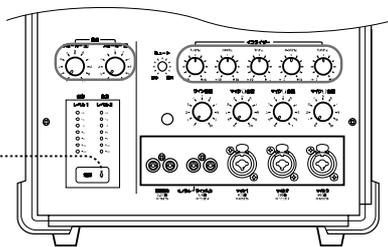
テープ走行モード選択スイッチで走行モードを選択してください。(P11の走行モードについてをご覧ください。)

### 4. 一時停止ボタンを押す

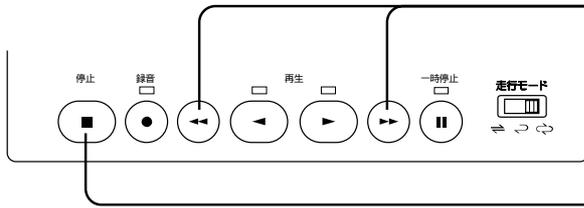
一時停止ボタンを押します。一時停止表示灯が点灯します。

### 7.

もう一度一時停止ボタンを押す  
一時停止ボタンを押します。一時停止表示灯が消え、録音を開始します。



## 早巻きのしかた

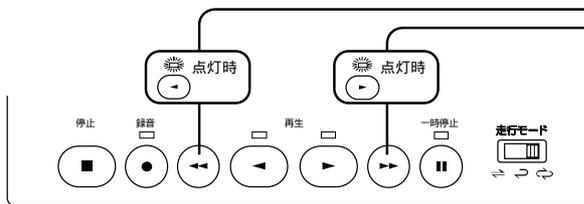


1. 矢印の方向の早巻きボタンを押すと、その方向の早巻きをします。

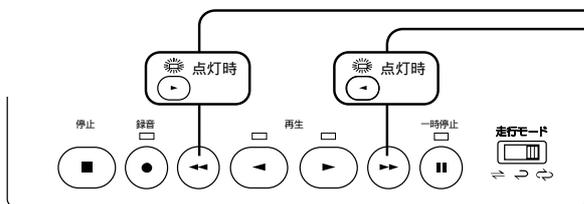
2. 停止ボタンを押すと早巻きが解除されテープが止まります。

## 一曲頭出し(自動選曲)のしかた

一曲頭出し(自動選曲)とは、録音されている曲間の無録音部分を自動的に検出して、曲の始めから再生する機能です。



1. 今聞いている曲の次の曲の頭出しをする場合再生している方向と同じ矢印の方向の早巻きボタンを押してください。走行方向表示灯が点滅し頭出し状態を示します。次の曲の始めのところで早巻きが解除され再生状態となります。



2. 今聞いている曲の頭出しをする場合再生している方向と反対の矢印の方向の早巻きボタンを押してください。走行方向表示灯が点滅し頭出し状態を示します。その曲の始めのところで早巻きが解除され再生状態となります。

### 頭出しで再生待機状態にするには

再生中に一時停止ボタンを押して再生待機状態にしてから、上記の1又は2の操作を行ってください。

## 一曲頭出しの録音のしかた

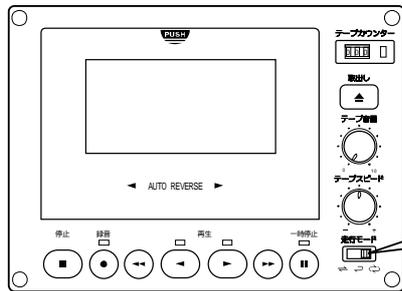
一曲頭出し再生をするためには曲と曲の間に3秒以上の無録音部分が必要です。

**ご注意..** 次のような録音状態のテープは頭出しが正常に動作せず、曲の頭でテープが止まらなかったり、曲の途中で止まったりしますので特にご注意ください。

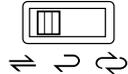
- 曲と曲の間に会話や雑音が入っている.....止まらない
- 曲と曲の間の無録音部分が短い(3秒以下).....止まらない
- 曲の途中で3秒以上の途切れがある.....曲の途中で止まる
- 弱音の多い音楽や、録音レベルが低いもの.....止まったり、止まらなかったり

## 走行モードについて

テープの走行モードとして、再生で3モード、録音2モードの中から一つ選択することができます。



### 走行モード



#### 1. 「⇒」一方向モード

正方向(⇒)、逆方向(⇐)のいずれでも、現在走行している方向のテープエンドで再生(又は録音)を停止するモードです。

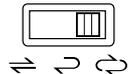
### 走行モード



#### 2. 「↔」往復モード

正方向(⇒)で再生(又は録音)をしている場合テープエンドで一度反転し逆方向のテープエンドで再生(又は録音)を停止するモードです。逆方向から再生(又は録音)を開始した場合はその方向のテープエンドで再生(又は録音)を停止します。

### 走行モード

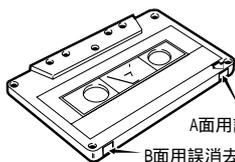


#### 3. 「↻」エンドレスモード

再生時に走行方向のテープエンドで反転を繰り返し連続して再生を繰り返します。録音時は往復モードと同じ動作となります。

## カセットテープについて

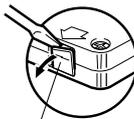
### 録音されたテープを誤って消去しないために



A面用誤消去防止つめ

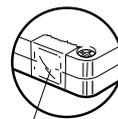
B面用誤消去防止つめ

誤消去を防止するには



ドライバーなどで折り取る

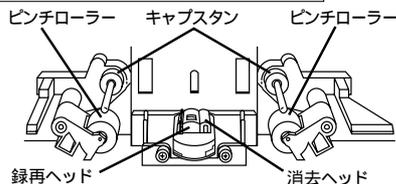
再び録音したいときは



セロハンテープをはる

貴重な録音を誤って消さないためにカセットテープには誤消去防止つめが各面用に各1つずつついています。このつめを折り取っておきますと、カセットデッキの誤消去防止装置が働いて再録音はできませんので安心です。つめを折り取ったカセットテープを再び録音したいときはセロテープなどでつめの穴の上にはってください。再録音が可能になります。

### デッキのお手入れのしかた



録再ヘッド

消去ヘッド

ご注意.....

取出しボタンを押し、カセットホルダーを開きます。

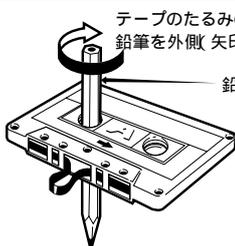
下方にピンチローラー、キャプスタン、録音/再生ヘッド、消去ヘッドが見えます。綿棒又はやわらかい布でヘッド面やキャプスタン、ピンチローラーを拭き、汚れを取り除きます。汚れのひどいときは、綿棒又は布に少量のアルコールを浸して拭き取ってください。

ヘッド部にドライバー、ペンチなどの鉄類や磁気類を近づけないでください。ヘッドが磁気を帯びますと録音時の雑音の原因になります。

ヘッドの清掃は力を入れなくてください。

本機に注油しますと故障の原因になります。絶対に注油しないでください。

### テープのたるみについて



テープのたるみのとりかた

鉛筆を外側(矢印方向)へまわします。

鉛筆

ご注意.....

カセットテープをデッキに入れる前にテープがたるんでいないことを確かめてください。もし、たるんでいたら六角形の鉛筆などで左図のようにして、たるみをとってください。たるんだまま使用しますとテープが切れたり、伸びたり、巻込んだりしてテープを傷つけることがあります。

カセットテープのリールを手で回してテープをたるませることも絶対しないでください。テープの巻きが強いときや、巻むらがあるときは、一度早送り又は巻戻しをしてからご使用ください。

高温、多湿の所や磁気のある所(テレビやスピーカーの近くなど)を避けて保管してください。(テープの最適保管条件は湿度50%、気温24℃といわれています)

ホコリの多い所での保管はプラスチックケースなどに収めてください。

C-120タイプ(120分用)のカセットテープは、ちょっとした不注意でテープが切れたり、伸びたり、巻込んだりしますのでご使用にならないでください。

### エンドレステープの使用について

エンドレステープはテープが巻き込み、故障の原因になりますのでご使用にならないでください。

### 著作権法について

あなたが放送やレコード、その他の録音物から録音したものや、他人の講演などを録音したものは、個人として楽しむなどの他は著作権法上、権利者に無断で使用できません。

放送コード、レコード、その他の録音物や他人の演奏などは、音楽の歌詞・楽曲と同じく著作権法により保護されています。従って、個人使用の範囲を超えて、それらをテープに録音して、販売・レ

ンタル・譲渡したり、営利のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。

詳しい内容や、著作権物に関する許諾のための手続きについては、「日本音楽著作権協会」(JASRAC)の本部または最寄りの支部にお問い合わせください。

# 別売ユニットの取付方法

本機は別売のワイヤレスチューナーユニット、または入力ユニットEU-300を合計4台まで組み込むことができます。(下表参照) 取付は販売店または、最寄りのユニベックス営業所にご相談ください。

## 適合ワイヤレスチューナーユニット

形式	受信周波数帯	品番
ダイバシティ	800MHz帯	DU-8200
ダイバシティ	300MHz帯	DU-3200A
シングル	300MHz帯	SU-3000A

DU-8030は組込不可

### 1. ブランクパネルをはずす

本機の電源プラグをコンセントから抜き、blankパネルをはずしてください。blankパネルの裏側には4Pコネクタと同軸コネクタ(A)が差し込まれていますので、それらをblankパネルから取りはずしてください。(図9参照)

**警告** ご使用中は、感電の恐れがありますので、blankパネルをはずさないでください。blankパネルをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

### 2. 各コネクタをワイヤレスチューナーユニットに接続する

ダイバシティワイヤレスチューナーユニットを組み込む場合は、図2のように本機側とユニット側の同軸コネクタ及び4Pコネクタを接続してください。同軸コネクタは必ず、同じ表示(A・B)のものと同軸コネクタ(B)の保護チューブは接続前にはずしてください。(図11参照)

入力ユニットEU-300を取り付けの場合

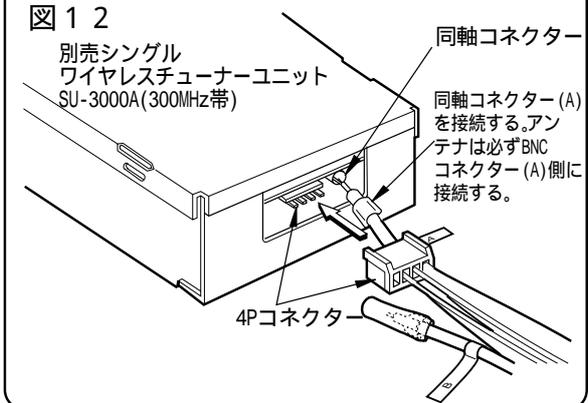
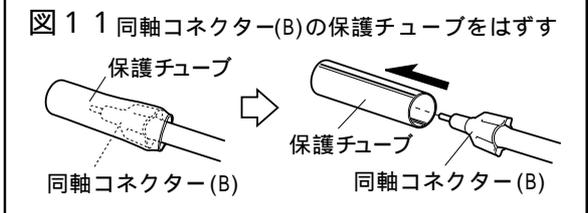
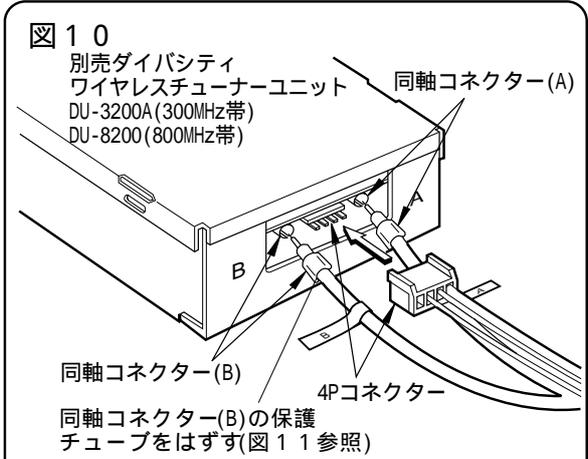
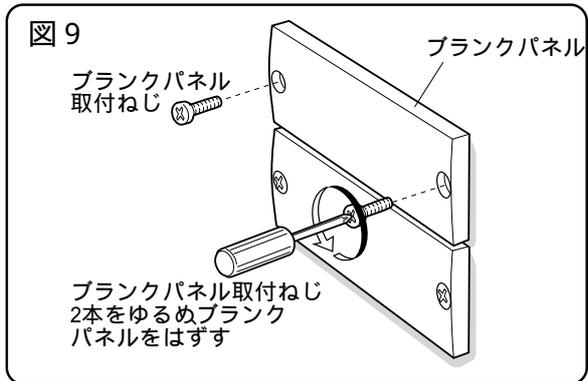
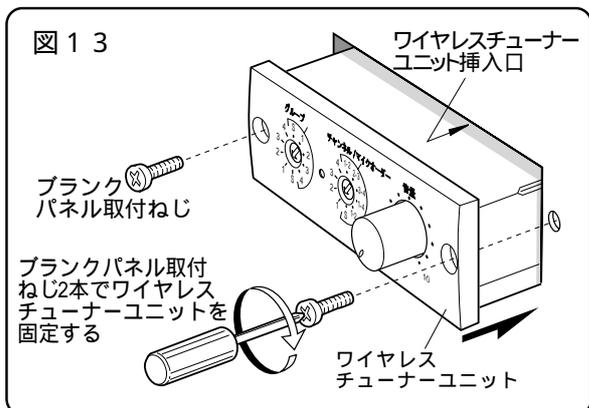
EU-300を取り付けの場合も同様に接続してください。取付手順1/3も同様です。

シングルワイヤレスチューナーユニットを組み込む場合は同軸コネクタ(A)と4Pコネクタを接続してください。(図12参照) ワイヤレスアンテナは必ずBNCコネクタ(A)側に接続してください。

取付ユニットの取扱説明書も合わせてご覧ください。

### 3. ワイヤレスチューナーユニットを組み込む

ワイヤレスチューナーユニットを本機のワイヤレスチューナーユニット挿入口に挿入し、blankパネルを取り付けてあった2本のねじで固定してください。(図13参照)

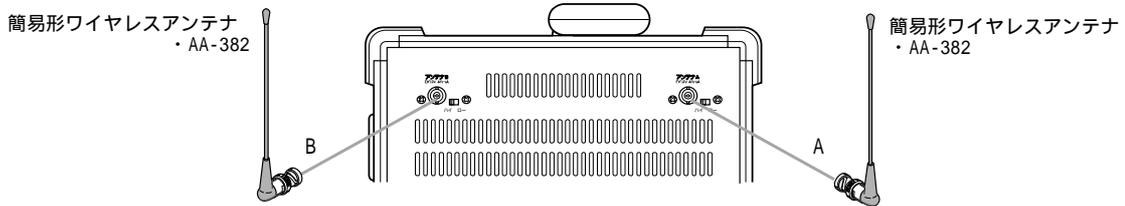


**ご注意..** blankパネルから4Pコネクタをはずす際には、blankパネルのロックのつめをはずしてから取りはずしてください。またワイヤレスチューナーユニット挿入時には、接続コードをはさみ込まないようにご注意ください。

# アンテナについて

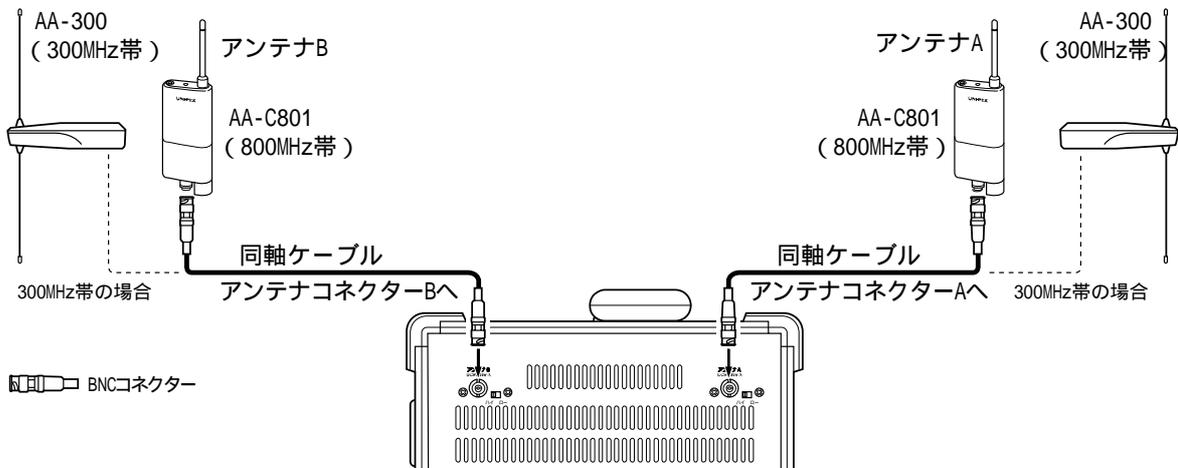
## 簡易形ワイヤレスアンテナ(AA-382)の接続のしかた

ワイヤレスマイクの移動する範囲内でアンテナのロッドが見えるように、本機背面のアンテナ端子A、アンテナ端子Bに垂直に取り付けてください。(800MHz帯/300MHz帯混用可)



## 設置形ワイヤレスアンテナ(AA-C801/AA-300)の接続のしかた (設置例)

本機が接続できるアンテナは最大2本です。(800MHz帯/300MHz帯混用不可)



## アンテナ設置上のご注意

下記表を参考にしてワイヤレスチューナーユニットに合ったワイヤレスアンテナを接続してください。

ワイヤレスチューナーユニット	受信周波数帯(形式)	適合アンテナ品番	アンテナ接続コネクタ
DU-8200	800MHz帯(ダイバシティ)	AA-C801	A / B
DU-3200A	300MHz帯(ダイバシティ)	AA-300	A / B
SU-3000A	300MHz帯(シングル)	AA-300	A

ワイヤレスアンテナを設置する前に、あらかじめアンテナを仮設し、ワイヤレスマイクの移動範囲内で受信テストをおこないデッドポイントが最も少ない所を選んでください。

雑音や妨害電波を避けるため、下記のような機器(場所)の近くには設置しないでください。

高周波乾燥機、高周波医療設備、電気溶接機、ブラッシングモーター、デジタル機器(コンピューター・電子楽器)、自動車(道路)、静電式空気清浄器など。

### 同軸ケーブルについてのご注意

アンテナを接続する前に、同軸ケーブル配線がショートしていないことを確かめてください。ショート状態で電源スイッチを入れると機器を傷めることがあります。

同軸ケーブルとBNCコネクタの接続、またはアンテナに直接ねじ止めする場合は接続が完全におこなわれていないと、高周波損失を招き電波伝送に大変悪い結果をもたらします。充分ご注意ください。アンテナと本機との距離が長くなりますと、減衰が大きくなり受信状態が悪くなります。下記表を参考にして、使用する同軸ケーブルをお選びください。

使用可能同軸ケーブル	3C-2V(300MHz帯に限る)	5C-2V	5C-FB
延長可能距離(800MHz帯/300MHz帯)	— / 約25m	約30m/約40m	約60m/約80m
使用コネクタ	BNCコネクタ 別売 AW-01 / AW-02(AW-12)		

# アンテナとワイヤレスマイクの関係について

同じ周波数の妨害電波、高周波を使う機器が近くにないことを確認してください。やむをえず雑音源の近くでご使用になる場合は、ワイヤレスマイクとワイヤレスアンテナの距離は約2m～10mの距離でご使用ください。なお、2m以内に近づくと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などが発生することがあります。その場合は本機のアンテナ感度切換スイッチ、またはワイヤレスアンテナ内部のスイッチをローに切り換えてください。(詳しくはP.6のアンテナ感度切換スイッチの説明をご覧ください。)

ワイヤレスマイクを2本以上ご使用の場合は、マイクロホン同士は50cm以上離してください。他の受信機へ混信することがあります。

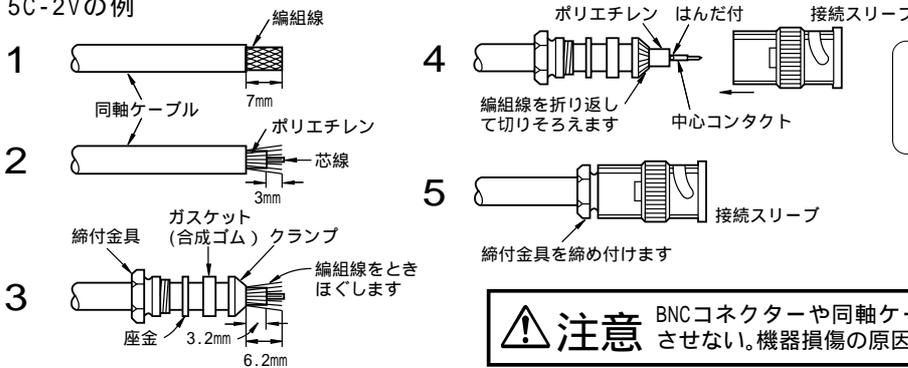
注) 使用中のワイヤレスマイクと同一周波数の他のワイヤレスマイクを「ON」にすると「ピー」という音がすることがあります。チャンネル(周波数)を変更してご使用ください。

## BNCコネクターと同軸ケーブルの接続のしかた(例)

同軸ケーブルの処理具合により受信性能が大幅に変わります。この説明に忠実に仕掛けてください。また同軸コネクターは性能の良いBNCコネクターを使用してください。

注) 接続後、芯線と編組線がショートしていないことをテスターなどで確認してください。

5C-2Vの例



ご注意  
中心コンタクトは、ポリエチレンとすきまのないようにして、ポリエチレンが溶けないように素早く芯線にはんだ付けをおこなってください。

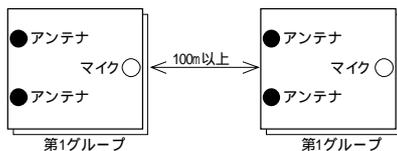
**注意** BNCコネクターや同軸ケーブルの配線をショートさせない。機器損傷の原因となることがあります。

## ワイヤレスマイクシステムの設計・設置について

### 同一グループを近接場所で同時に使用する場合

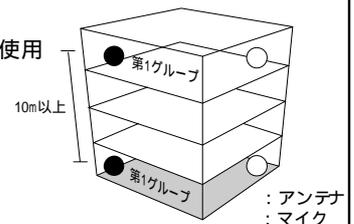
#### 同一平面の場合

お互いの使用場所を100m以上離してください。



#### 階層が異なる場合

鉄骨/鉄筋構造の場合、お互いの使用場所を垂直距離で10m以上離してください。(木造の場合は不可)

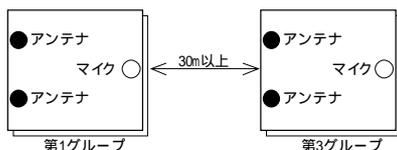


### 他のグループを近接場所で同時に使用する場合

例えば800MHz帯の第1グループ(B11～B16)と第3グループ(B31～B36)を近くで同時に使用する場合は、以下のような注意が必要です。

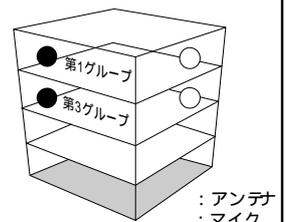
#### 同一平面の場合

お互いの使用場所を30m以上離してください。



#### 階層が異なる場合

鉄骨/鉄筋構造の場合、階層が異なれば、同一平面の場合のような制限はなく使用できます。(木造の場合は不可)

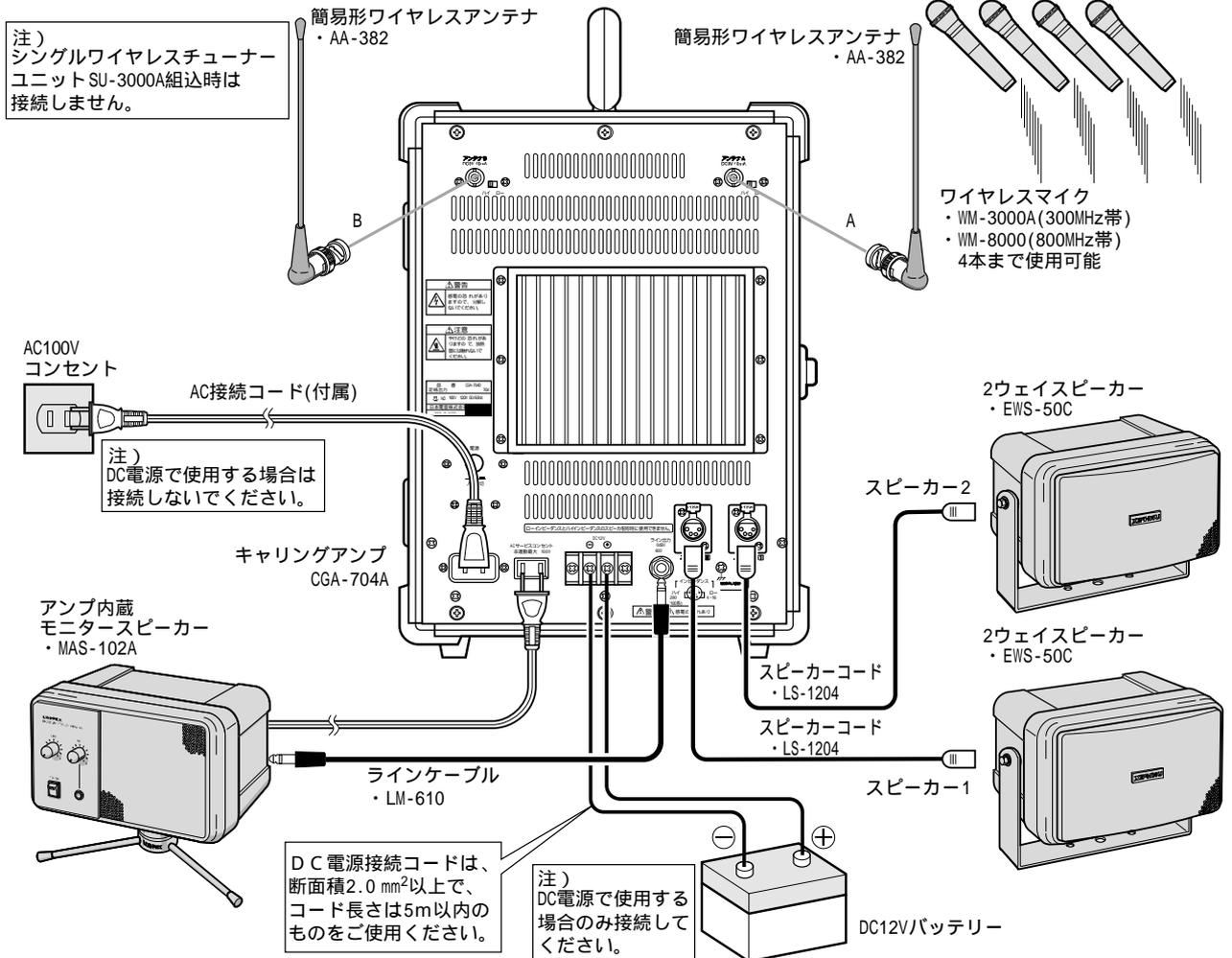
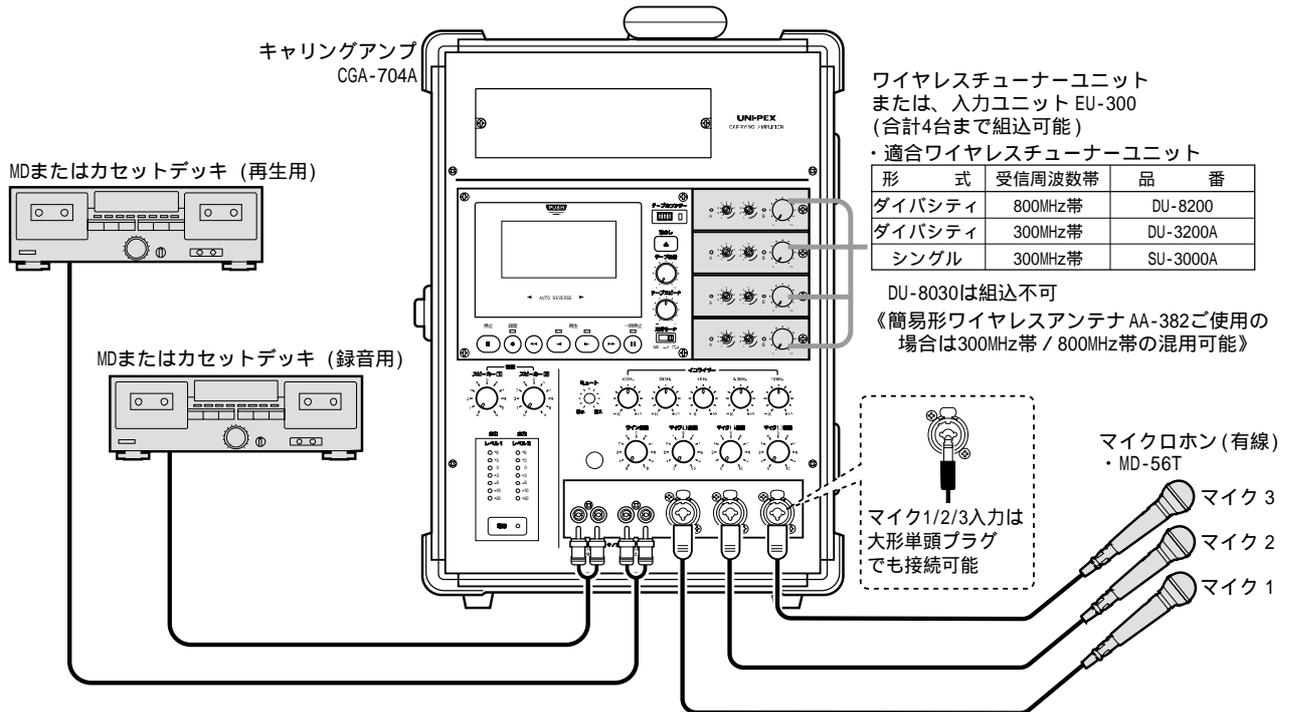


注: 同一閉空間(仕切りは壁、戸、ガラス等)では、1つのグループ(800MHz帯では6chまで、300MHz帯では4chまで)しか同時使用できません。

上記はユニベックスワイヤレスマイクシステムの基本的な説明です。

# 接続例

(下記以外の接続については販売店などへご相談ください。)



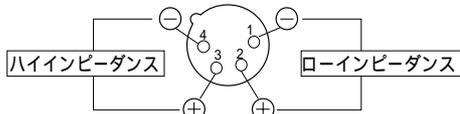
# キャノンタイプコネクターの説明

本機のマイク入力端子とスピーカー出力端子はキャノンタイプコネクター(XLR-3-31/XLR-4-31相当)です。

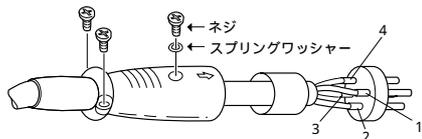
**⚠注意** 配線を間違えない、ショートさせない。機器の損傷や火災・感電の原因となることがあります。

## 結線図

### スピーカー出力用(XLR-4-12C相当)

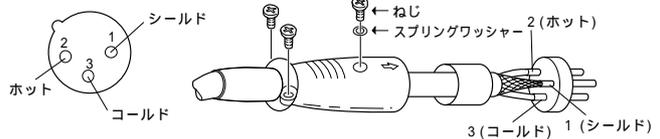


注) ハイインピーダンススピーカーとローインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。

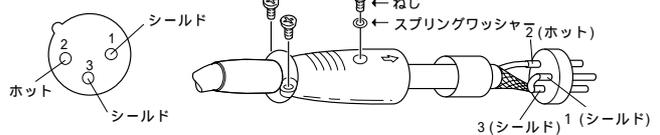


### マイク入力用(XLR-3-12C相当)

#### マイク(平衡)

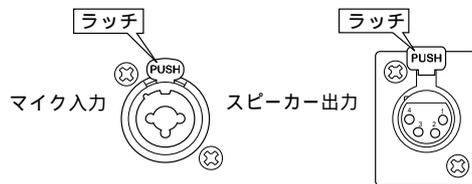


#### マイク(不平衡)



## 接続のはずし方

キャノンタイプコネクターの接続をはずされるときは、本機側のコネクターのラッチを押しながら抜いてください。



# 点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな?と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。



## 警告

次の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	DC電源で使用の場合、電源が接続されていますか。	DC電源の接続を確認してください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
	各音量調節つまみが絞られていませんか。	各音量を適当な音量に調節してください。
有線マイクの音声 がでてこない	マイクのトークスイッチは入っていますか。	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
スピーカーより音 がでない。	マイク音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	スピーカー接続コネクタは確実に接続されていますか。	確認してください。
	スピーカー出力つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
音がわる	出力レベルメーターの赤色LEDが常時、点灯していませんか。	赤色LEDが常時、点灯しないように音量を調節してください。
音質がおかしい	正しくイコライザーが使用されていますか。	イコライザー調節つまみの説明をよく読んで調節してください。
雑音がでる	本機やスピーカーコード、マイクコードなどがノイズを発生する機器の近くにありませんか。	ノイズを発生する機器から遠ざけてください。
外部機器の音がで ない。または小さい。	接続機器及び本機の入力音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	接続機器のレベルは合っていますか。	ライン入力の説明をご覧ください。

## カセットデッキ部

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
テープが走行してい るのに音がでない。	未録音のカセットテープがセットされていませんか。	確認してください。
	テープ音量調節つまみが「0」になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
前回は録音した音が ときどきでる	前回、本機で録音された場合	消去ヘッドを清掃してください。(P11のデッキのお手入れのしかたを参照)その後、録音をやり直してください。
	前回、他機で録音された場合	録音をやり直してください。
音がかすれたりふる えたり、また録音がき れいにできない	キャプスタン、ピンチローラー、ヘッドが汚れていませんか。	キャプスタン、ピンチローラー、ヘッド部を清掃してください。(P11のデッキのお手入れのしかたを参照)
	テープが傷んでいませんか。	別のテープと取り換えて問題がなければ、新しいテープと交換してください。
録音ボタンを押して も、このボタンが動作 しない	カセットテープの誤消去防止つまみが折り取られていませんか。	誤消去防止つまみが折り取られていれば、溝にゼロテープを貼ってください。(P11の録音されたテープを誤って消去しないためにを参照)
自動選曲ができない	録音の方法を誤っていませんか。	P10の一曲頭出し(自動選曲)の録音のしかたを参照

## ワイヤレスチューナーユニット部

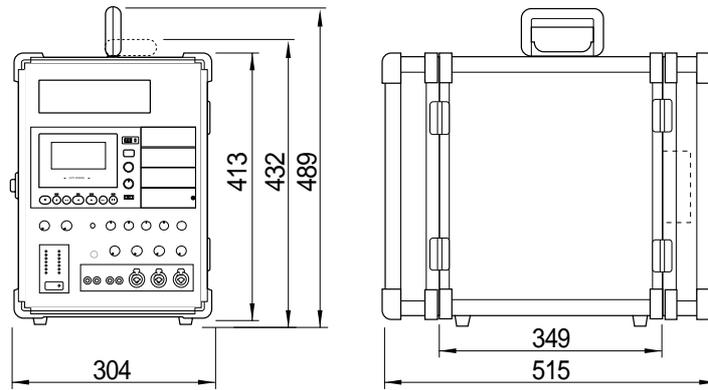
症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
ワイヤレスマイクの 音声が出てこない	マイクのトークスイッチは入っていますか。	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクの電池は入っていますか。	確認と同時に電池の消耗もチェックしてください。
	マイクとチューナーユニットの周波数は同じですか。	グループ/チャンネル番号を確認してください。
	デッドポイントの位置ではありませんか。	確認してください。
	ワイヤレスチューナーユニットの音量調節つまみが絞られていませんか。	適当な音量に調節してください。

# 定格

品番	CGA-704A
使用電源	AC100V 50/60Hz DC14V(12Vバッテリー)
定格消費電力	120W(電気用品安全法による測定方法に基づく)
消費電流	AC2.8A(定格出力時) DC11A(定格出力時)
定格出力	35W × 2
出力負荷インピーダンス	290 × 2 平衡 4 (4 ~ 16 スピーカー使用可能) × 2 不平衡
録音出力	- 10dBV 2.2k 不平衡
ライン出力	0dBV 600 不平衡
ひずみ率	5%以下(1kHz 定格出力時)
周波数特性	50Hz ~ 18kHz 偏差 ± 3dB(ライン入力 定格出力 - 10dB時) 100Hz ~ 10kHz 偏差 ± 3dB(マイク入力 定格出力 - 10dB時)
音質特性	100Hz / 330Hz / 1kHz / 3.3kHz / 10kHz 5ポイントコライザー ± 10dB (ライン入力 各周波数ポイント基準)
入力感度及びインピーダンス	マイク 1 ~ 3: - 62dBV 600 電子平衡 音量調節器付 ライン: - 22dBV 10k 不平衡 音量調節器付
信号対雑音比	65dB以上
アンテナ入力	BNCコネクター × 2 アンテナ感度切換スイッチ付 ファンタム電源送り(簡易型ワイヤレスアンテナ取付可能)
動作表示	電源: LED(緑)、出力表示: LED(緑 × 4 / 赤 × 3) 2系統
付帯機能	フェーダー機能(減衰量調節付): マイク、ワイヤレス入力によりライン、カセット、CD音量が減衰 リミッター機能: マイク、ワイヤレス入力において過大入力時のひずみを軽減
カセットデッキ部	
適合テープ	フィリップス形コンパクトカセットテープ(C-120、エンドレステープを除く) ノーマルテープ
メカニズム	フルロジック
制御方式	オートリバース方式
テープ速度	4.75cm/sec(再生時 ± 18%可変)
ワウ・フラッター	0.25% WRMS
トラック方式	2トラック 1チャンネル
ヘッド	録再1、消去1(ロータリー式)
選曲	前後一曲
早巻き時間	約120秒(C-60使用時)
録音方式	オートレベル、交流バイアス方式
消去方式	交流消去方式
回転部寿命	約1000時間
付帯機能	テープカウンター、テープスピード調節器、一時停止、走行モード選択、テープ音量調節器、オイルダンパー式カセットホルダー
動作表示	録音時: 発光ダイオード(赤) / 再生時: 発光ダイオード(緑) / カセット一時停止時: 発光ダイオード(橙) / テープカウンター: 機械式
使用温度範囲	0 ~ + 40
外装	パネル(鋼板): マンセルN1 近似色 ブラック 半艶塗装 ケース(アルミニウム製): アルマイト仕上げ シルバー色
寸法	幅304mm 高さ489mm 奥行515mm
質量	約18kg
付属品	取扱説明書 1、ACコード1

# 外觀寸法図

(単位 mm)



製造元 日本電音株式会社  
発売元 ユニペック株式会社

RKTCGA704A-H0-0